

2011・2012 年度 中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	法学部	身分	教授
氏名	中島 康予		
NAME	NAKAJIMA, Yasuyo		

1. 研究課題

(和文) フランス福祉レジームの変容——「連帯」言説を軸として——

(英文) Transformation of the French Welfare Regime: An Analysis of Discourse of Solidarity

2. 研究期間

2 年間

3. 研究の概要 (背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600 字程度、英文 50word 程度)

(和文) 保守主義型に分類されるフランスの福祉レジームは、就労・離職を前提とし、保険原理に基づく職業連帯に基づく主要な柱とし、その周縁に社会扶助制度が置かれていた。しかし、経済の国際化・グローバル化の進展、労働市場の流動化・柔軟化にともない増加した長期失業者をこの制度はすくいとることができない。そこで参入政策が立案・実施されるに至る。一九七〇年代半ばから展開した「新しい貧困」論が、「排除」、「社会的排除」を軸にした問題分析と「参入」という問題解決策をワンセットにした言説として政治化され、それが、RMI を含む諸政策として結実する過程を概観する。しかし、2000 年代に入ると、労働能力ある受給者個人の義務と責任を厳しく問い、制度の悪用を告発する言説として現れ、結局、RMI の廃止と RSA の創設に至る。この過程では、ポスト受動的福祉国家というアイディアを軸とした諸戦略のせめぎ合いがみられ、「社会的なもの」の第三の領域が生まれており、それと連動して労働市場の二元化が進み、擬似雇用が生まれるなどの問題が現れている。権利保障の個人化・契約化・手続化・交渉化の傾向をとまなう政策は、権利のあるタイプの主体化を推し進め、「非申請者／潜在的有資格者」を生んでいる。アクター・主体とその利益が構築される政治（「政治化」と「脱政治化」の過程）の進行が認められる。

(英文) This research is an attempt to analyze the politics of the transformation of French welfare regime, the comparative welfare state literature has treated as conservative, Bismarckian welfare system. Since the middle of 1970s, inclusion policies, discourses “combating social exclusion” and “constructing an active solidarity” justified, for example RMI replaced by RSA, have produced the “third sphere of the social”, accompanied with labour market dualization and quasi employment.

4. おもな発表論文等（予定を含む）

<p>【学術論文】（著者名、論文題目、誌名、査読の有無、巻号、頁、発行年月）</p> <p>中島康予「ポスト受動的福祉国家のアイデアと連帯——フランス福祉レジームの変容と言説政治——」『法学新報』（査読無）119巻5・6号、129-160頁、2012年12月。</p> <p>中島康予「労働能力ある貧困者の主体化と非申請——挟撃されるフランスの参入政策——」『法学新報』（査読無）119巻7・8号、337-336頁、2013年1月。</p>
<p>【学会発表】（発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月）</p>
<p>【図 書】（著者名、出版社名、書名、刊行年）</p>
<p>【その他】（知的財産権、ニュースリリース等）</p>